

# おお大勝利

平成 29 年度山東サッカー部報第 3 号 (4 月 26 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## Y1第2節 日大山形への連敗記録を止める

4 月 22 日 (土) Y1 第 2 節日大山戦が山形市球技場で開催されました。前節の開幕戦、山東は 1-2 の逆転負けという惜敗でしたが、後半の内容を比べると完敗に近かった印象あり。その開幕戦に試合を観に来てくれた千葉県在住の私の友人<sup>1</sup>が、「山東良いチームだね、選手を集めることができないチームなのに・・・」と褒めてくれたけど、自分の中では「いや、これじゃない、こんなもんじゃない、このチームはもっと良い内容のサッカーができなきゃおかしい」と悶々としたものを抱えていた。そして、あつと言う間に、第 2 節の日を迎えてしまう。正直、この一週間、選手のコンディションを整えるので精一杯だったし、業務と家庭の事情に追われ相手を踏まえたトレーニングを施すどころではなかった(グラウンド滞在時間が短かった)。前節の消化不良感を残しつつ、そして今節の準備不足を意識しつつ、当日を迎えてしまった。そんな気分でした。

**相手の日大山形は、昔も今も山形県の高校サッカー界をリードする存在。**圧倒的な縦への突進力と対人の強さ<sup>2</sup>は、他の追随を許さない。これまで山東も、何度煮え湯を飲まされてきたことか。もうカオルの代(平成 20 年)の地区総体で勝って以来、勝ててない<sup>3</sup>。というか、引き分けもない。連敗記録が続いているはず<sup>4</sup>。「前期優勝が目標だ」などと血気盛んにぶち上げた山東ですが、日大山形相手にどんな戦いになるだろうか。戦いを待望する気持ちの前に不安感がまず先立つのは、勝負に臨む者の一般的な慎重さではなく、これまで繰り返されてきた悔しさ・失望感の輪から抜け出せず弱気になる敗者のメンタリティなのではないか。ともかく、**日大との戦いは気持ちの戦いでもある。**

場所は山形市球技場(人工芝)。Y1 になって村山地区での試合が多くなりバス代がかか

<sup>1</sup> たびたびこの部報に登場している私の幼馴染です。千葉県で小学生にサッカーを教えています(専業ではない)。自分の子供の学年にだけ教えているコーチもいるでしょうが、この人はそれ(自分の子供の代)を過ぎてからもしっかり関わっている。同業者?としてうれしいかぎりです。

<sup>2</sup> 一人一人が相手の誰を受け持つか決まっているマンマーク方式が徹底されており、かつ、個々の選手が常に良いポジショニングにてマークへのパスやマークのトラップ際のインターセプトを狙っている。**対人の強さという、パワフルさをまず連想してしまう方もいるでしょうが、日大山形の選手(そしてそれを育てる指導者)の凄さは、全体の戦いを常に個々の戦い(1対1)に分解して理解し、それを元に発想し、実行できることと感じます。**「1+1は2じゃない → 全体>個の総和」という発想に潜む曖昧さを許さないとも言えましょうか。**対戦すると、圧倒的な要素還元力 analysis を前にして組立て synthesis が許されない無力感を感じずにはいられません。**

<sup>3</sup> その年の県総体の準決勝でも、地区大会で勝った日大山形に敗れてしまいました・・・。

<sup>4</sup> 調べれば分かりますが、何連敗しているか調べる気が起きないので、そのままにしておきます。

らないのは、チームバスを保有していない山東にとってはうれしい限り<sup>5</sup>。風は強風とまでは言えないものの、内容・結果を左右するくらいはしっかり吹いている。有難いことに、**清野総監督（後援会名誉会長）、工藤先輩、後藤報道局長のいつもの御三方**がお見えになる。**芹川さん（せりかわ整骨院）**から派遣して頂いて**志田トレーナー（楽トレスペース Green 〒990-0034 山形県山形市東原町 3 丁目 9-16 Q ビルディング 1 階 Tel023-629-7411）**も来て下さった。OBOG では、山形大学を卒業し中学校教員採用試験に一発合格（理科）しこのたび金井中に赴任し**現在元気に硬式テニス部顧問を務めている大築くん**（山東 62 回卒）と、正月の埼玉遠征にも来てくれた東北大学 2 年の **old ヨーティ**（65 回卒）が応援に駆けつけてくれた。また、懐かしいことに、山東から筑波大学を経て**現在鳥取城北高校の監督を務めている晋平くん**（59 回卒）のお父様が試合前にベンチに激励に来て下さった！ 鳥取城北は、晋平くんが赴任してから選手権予選で準優勝を飾るなど、着実に力をつけてきた。「早く山形に戻ってきてほしいんだけど～」とお父様がおっしゃるので、「山東の監督の席はいつでも空けておきます（本気）」とお答えしました～。山東の監督になると宣言していた**コータロー**（57 回卒）も、公立の道を選ばず山形明正に拾ってもらっている。その他の面々も、**コウスケ**（61 回卒）にしろ大築にしろ、高校の教員を選んではくれなかった。後継者などと言うとおこがましいですが、**後任は誰になるのか、不安になる今日この頃。**

さて、前ふりが長すぎました。試合が開始されると、風上の勢いという訳ではないにせよ、日大に押されまくる。**日大も特別なことをしている訳ではなく、当たり前のように競り、前に跳ね返し、それを前線がしぶとく攻撃につなげる。**ただ、その攻撃に対してしっかりクリアをし、クリアボールを簡単に跳ね返させないで中盤での攻防に持って行く力がないので、弱々しいクリアを拾われたり、クリアをまた簡単に大きく跳ね返されたりして、攻められ続ける。日大のスタッフに「しかし競り合い強いね～」「ヘディング強いね～」と言うと、「特別なことしてないけどね」「当たり前のことだべ」という反応が返ってくるが、そうなんです、当たり前のことなんです。**当たり前のことを当たり前でできないことが、無様な試合をお見せすることになる。日大とやると、その基本にいつも立ち返ることになる。**攻められながらも、どうにかこうにか凌ぐ時間が続く。日大が風上だが、それで日大のロングボールがゴールラインを割ったり山東 GK に捕られたりすることにつながっているように見え、風上が日大の助けになっていないと感じる。ともかく、**山東何とか前半粘り、前半スコアレス。**

ハーフタイム、「後半は風上に立って『さあ山東の番だ』」と思っているかもしれないけど、日大が風下になるとロングボールがうまいところで止まってラインを割らないから、日大の攻撃は余計にうるさくなるぞ」と一応脅しておく。選手たちは、**前節も含め昨年から後半の後半での失点が多い**ことから、この後半にやたらと気合が入っている。「(これまでと違って)残り 15 分からさらにギア上げるぞ」という掛け声が聞こえる。「ここまでセーブしてきたのかね（一杯一杯だろ）」と言って水を差すことはせず、静観。

後半も、日大ペース。すると**後半 2 分**、連続攻撃の中から左足で山東ゴール左をカーブをかけて狙ったファインシュートが決まり、**失点**。せっかく前半粘ったのに、後半早すぎる失点。**攻め手がない中での失点に、ベンチから見ると敗色濃厚と映る。**しかし、「残り 15 分」を掛け声にしていた山東の選手にとっては、ここで下を向く場面ではなく、「ここから

<sup>5</sup> もちろん、他地区のチームは移動が多く大変でしょうから、大きな声では言えません。また、Y2 以下では、他地区での公式戦が多くなり、移動費がばかにならないチームもあります・・・。

ここから」という気持ちだったか。ともかく今年の山東、3年CBカンタという「ピッチ内の監督」がいるので、ゲームコントロールというかマインドコントロール？というか、精神的な声掛けが途切れない。これは心強い。15分、これまで山東の攻撃を牽引してきたが、股関節痛に試合中の腿カンが重なって動きのかなり悪かったベジを交代させ、2年ヤマサンin。すると本当に残り15分くらいから、少しずつ日大が疲れてきたのか、山東の勢いがやっとなってきたのか、よくわかりませんが、風向きが山東に傾いてくる。それまで、どうやっても攻め手がない状態でしたが、やっとな山東の時間が訪れる。きっかけを作ってくれたのは、二人の2年生ではないか。2年キクチャンが右に左に仕掛けて日大を混乱に陥れたり、2年フトシがしぶといディフェンス<sup>6</sup>から機敏な仕掛けを取行し、山東が連続して押し込み続ける。すると、やはりキクチャンの仕掛けからビッグチャンス到来。キクチャンが右から仕掛け、角度は厳し目だがシュートも狙える位置に抜け出す。日大の選手は、最後の対応がやはり素晴らしい。GK任せにせず、複数人がシュートをコースを消そうとスライディング。ファーサイドからはヤマサンも来ていたので、そこへのパスコースも消す必要があった。ということで日大の3人が同時にゴールを守ろうと突進<sup>7</sup>。するとキクチャンはマイナス気味(後方へ)のパス。日大の選手にかすかに当たりながらもゴール至近距離でこぼれたのを後ろから猛追してきたのが、これまた2年のものまねタレントタカヒラで、ごっつぁんゴール！！山東同点。流れが良い時の得点で、さらに勢いづく。

その後も山東の攻めが続き、中盤では競り合いに勝つシーンも増え、山東の選手の良いところばかりが見え始め、何だか狐につままれた気分。「これまでの70分は何だったんだろう、この20分は何なんだろう」と解せない。日大が落ちたのか、山東が上がったのか、何なのか。最後の15分だけ切り取れば、山東はもう1点は追加しておかなければいけなかった、逆転できた試合でした。結局そこまですまくは行かず、1・1のドロー。敗色濃厚と感じた後半序盤からすれば、また相手が強豪日大ということを考えれば、ドローという結果は御の字でしょうが、逆転できたという気持ちもあり、複雑。やはり、しぶとく粘っていると良い時間が到来するという事なのでしょう。あと、ここでは詳述は控えますが、システム変更やポジションチェンジがマンマークシステムに対して非常に有効であることが確認されたとも言えるでしょう。そして何より、勢いを牽引した前線の選手がすべて2年生であることがうれしい。ヤマサンなんかは、へぼパス連発で到底合格点から程遠いパフォーマンスながら、得点シーンでゴールに突進し日大DFを釣った積極的な姿勢は評価に値する。あの得点、キクチャン0.7点、ヤマサン0.2点、タカヒラ0.1点です。

試合後、試合当日や翌日、「山東強いね」とやたら褒められる。勝ったわけでもないのに、こんなに褒められるのは、引き分けという結果ですら意外性をもって迎えられたということでしょう。そして、それくらい、日大ブランドへの信頼が強いということでしょう。日大山形、さすがです。

<sup>6</sup> フトシは前半から唯一と言っていいでしょうが、ヘディングで競り勝つことが多かった。また、縦切り(相手ボールホルダーに対してよこから迫り一方の狭いところに追い込むワンサイドカット)ではなく、**縦切り**(相手の前に立って前にボールを出させないようにし横パスを促す限定の仕方)の指示を良く実行してくれました。昨年のフトシを知る人からすれば、ヘディングやディフェンスができるというのは信じられないことですが、選手は成長していますね。

<sup>7</sup> これらのシーンは、後藤さんが撮られたHPの写真でやっとなわかったことです。

選手諸君は、Y1 での初勝ち点ゲットということで、素直に喜んで良いと思うし、残り15分くらいの戦いが日大相手にもできるということに自信を深めて良い。というか、「できるようになった」という表現が適切か。日大山形と試合をすると、プレースピード（主に判断のスピード）が上がる効果があると常々思っているのですが、この試合も、**90分の試合を通じて選手が成長**し、日大とそこそこ渡り合えるまでに成長した、ということかもしれない。そうであれば、一番うれしい。**相手をも伸ばす。日大山形、さすがです。**

日大の選手との違い、上述の通り、**競り合いの準備**（常に前に入りインターセプトする機会を失わないポジショニング）や、**ボールを待たない姿勢**<sup>8</sup>は本当に見習うべきと感じました。さて、次節の相手は、ここまで2連勝の羽黒です。昨年県新人の戦いを観て、「羽黒強い」と感じていましたので、2連勝は意外でも何でもありません。優勝候補との戦いと言っても過言ではないかと思います。応援よろしくお願いします。

**4月29日（土） Y1 第3節 VS 羽黒 A 13:30～ @山形市球技場**

---

<sup>8</sup> 日大の選手は常にボールに対して近づき、早めにボールに触れようとしませんが、山東の選手（特にDF）はボールを待ってしまうため、横から入ってくる日大のFWに体を入れられてボールを確保されてばかりいました。いわゆる基礎と呼ばれるトレーニングで、パス交換のシーンなどを見ても、できるだけ前で、バウンドさせずに、トラップしようとして心掛けていると評価できる選手は、山東の中にいません。どういふプレーを意識しないとY1で通用しないか、日大山形さんに教えてもらったと思うので、どのように選手が変化するか、楽しみです。